

水環境文化賞を受賞して

えいだがわ

永田川カエル倶楽部

1. 授賞式に出席して

「永田川カエル倶楽部」は、2003（平成15）年8月に永田川の環境保全と回復（カエル）を目的として、清掃活動を数名の構成員で始めました。活動当初は、資金もなく自己責任で参加していただいていた。2005（平成17）年に広島県のラブリバー登録によって自動的に傷害保険に加入できたため、安心して活動ができるようになり、構成員数も次第に増加しました。

こうして活動が継続できる理由としては、広島県や江田島市の「アダプト活動制度」と広島県の「せとうち海援隊」制度への加入により、広島県と江田島市が清掃活動の奨励と環境調査等の資金や資材の支援をしてくれることが原動力でもあります。

今回の「水環境文化賞」は、地域の子ども達や保護者（サポーター）と行政や支援団体と連携しつつ、楽しく、ゆっくりと、「森・里・川・海」の環境保全・回復活動を継続していることが高く評価されたものと、「永田川カエル倶楽部」構成員一同は喜んでます。

日本水環境学会の表彰式に出席し、皆様の前で名誉ある表彰をされたことに感動しました。コンパクトな永田川流域の「森・里・川・海」で活動できる喜びを改めて嬉しく思っています。

「水環境文化賞」は、「永田川カエル倶楽部」にとって初めての学会表彰であり、江田島市の活動団体にあっても初めての受賞です。「水環境文化賞」の応募にあたっては、推薦と支援いただいた江田島市市民生活部環境課の皆様とも喜びを分かち合いました。

「森・里・川・海」の環境保全・回復活動をしている

と、自然災害等によって河川環境や干潟環境が大きく変化することがあります。

昨年は6月に洪水が発生し、水生生物が激減したことを子ども達は体験しました。もしも、2017年に今までおり水生生物が多種多様に生息していたなら、「なぜだろう」と原因を考え、増加していなければ、「なぜだろう」と原因を考えるでしょう。それが、自然環境の破壊力や回復力の知識が身に付き、こうした体験により、「考える力を持った子ども達や保護者」が育ち、保護者から子どもや孫へ「継がれていくもの」と信じています。

2. 市長へ受賞報告をして

「水環境文化賞」の受賞報告を推薦していただいた江田島市市民生活部環境課にしたところ、市長報告会を2017年3月30日市庁舎で開催していただき、構成員の子ども13人と大人7人が参加しました。

市長から「このたびは水環境文化賞受賞おめでとうございます」のお言葉をいただき、私が、「水環境文化賞」の受賞報告をしました。その後、市長が子ども達に「活動で楽しいことやわかったこと」などを質問されました。子どもたちは、「永田川の水生生物の生息状況」、「緩勾配落差工で滑って遊んで楽しかったこと」、「ウナギに触って感動したこと」などを答えていました。それに対して、市長は、「多くの体験できた喜びを大切に、それぞれの体験は貴重な宝物ですから大切にしてください」と声をかけていただき、子ども達にとっては感動とともに心に深く残ったものと思います。

最後に、今後も活動は進化しつつ続きます。



写真1 表彰式後の記念撮影



写真2 市長を囲んでの記念撮影